

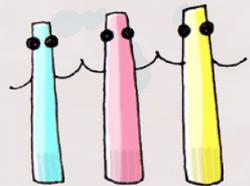
針尾無線塔の過去・未来

～電波と伝播～

佐世保市教育委員会 松尾秀昭



今回の3つの柱



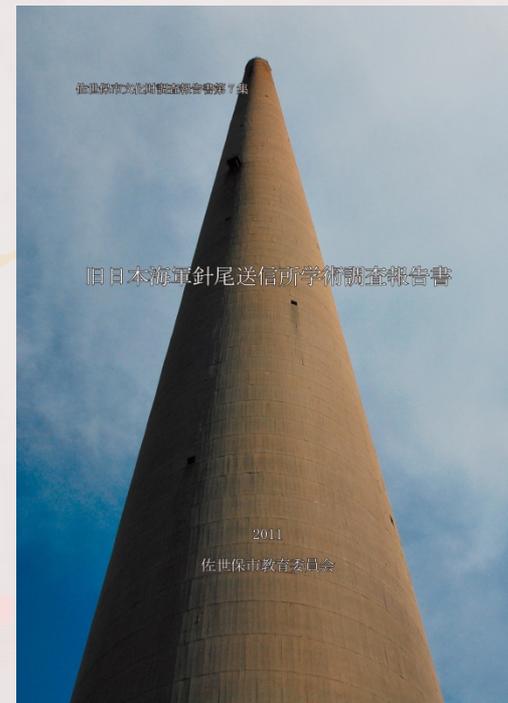
1. 建設に至った歴史的背景



2. 送信所にある建物



3. これからの姿



針尾無線塔プロフィール



- 1922(大正11)年 建設(竣工)
- 1945(昭和20)年 太平洋戦争終戦
- 同年 9月 連合軍最高指令総司令部(GHQ)接收
- 1948(昭和23)年 海上保安庁が使用開始
- 1954(昭和29)年 海上自衛隊と共同使用
- 1997(平成9)年 無線塔・通信局舎 使用終了

● 2011(平成23)年 国重要文化財 答申

● ??(平成??)年 国重要文化財 指定

1 歴史的背景

佐世保鎮守府設置

18世紀後半 欧米諸国が近代国家へ急速に発展

↓ 国防政策

1886(明治19)年 全国を5海軍区に分け、鎮守府の設置を定める

同年 5月4日 佐世保鎮守府設置決定

1881(明治14)年 日本海軍は軍備拡大を計画

1883(明治16)年 佐世保湾近郊の港湾測量

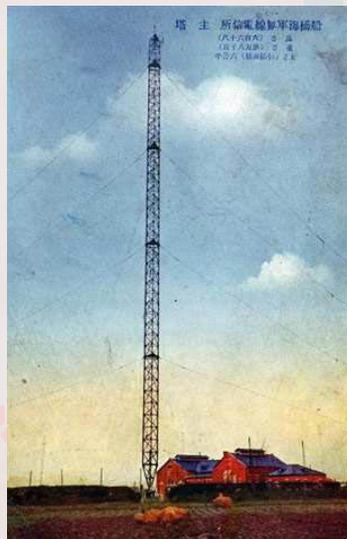
佐世保湾 VS 伊万里湾

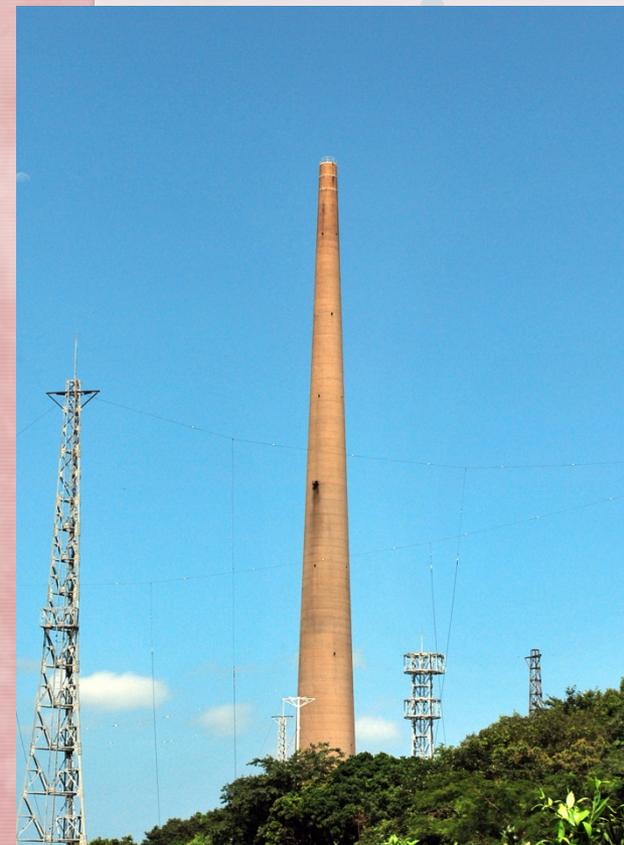
針尾送信所建設～太平洋戦争

1904(明治37)年 日露戦争開戦

↓ 電波通信の重要性

1910(明治43)年 千葉・台湾・佐世保に無線局建設を計画

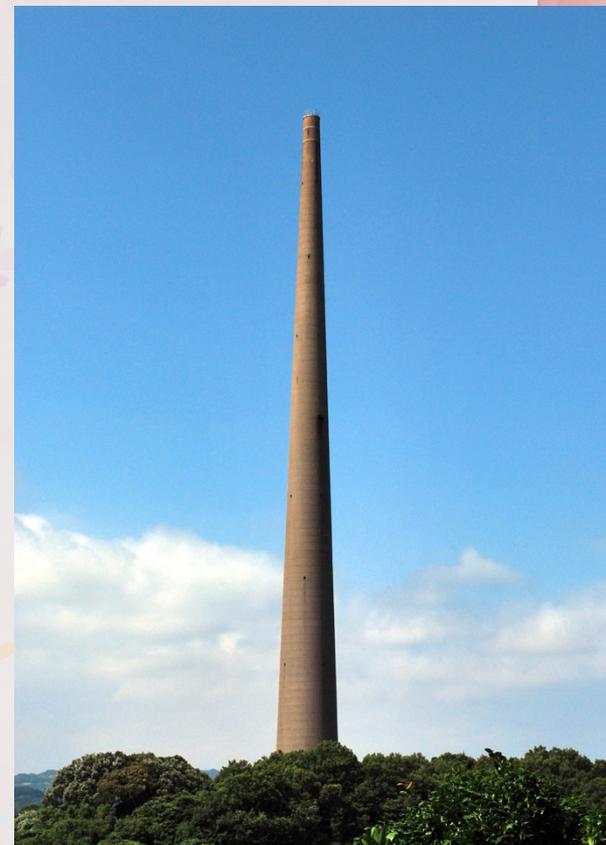




1号塔 4月30日 完成



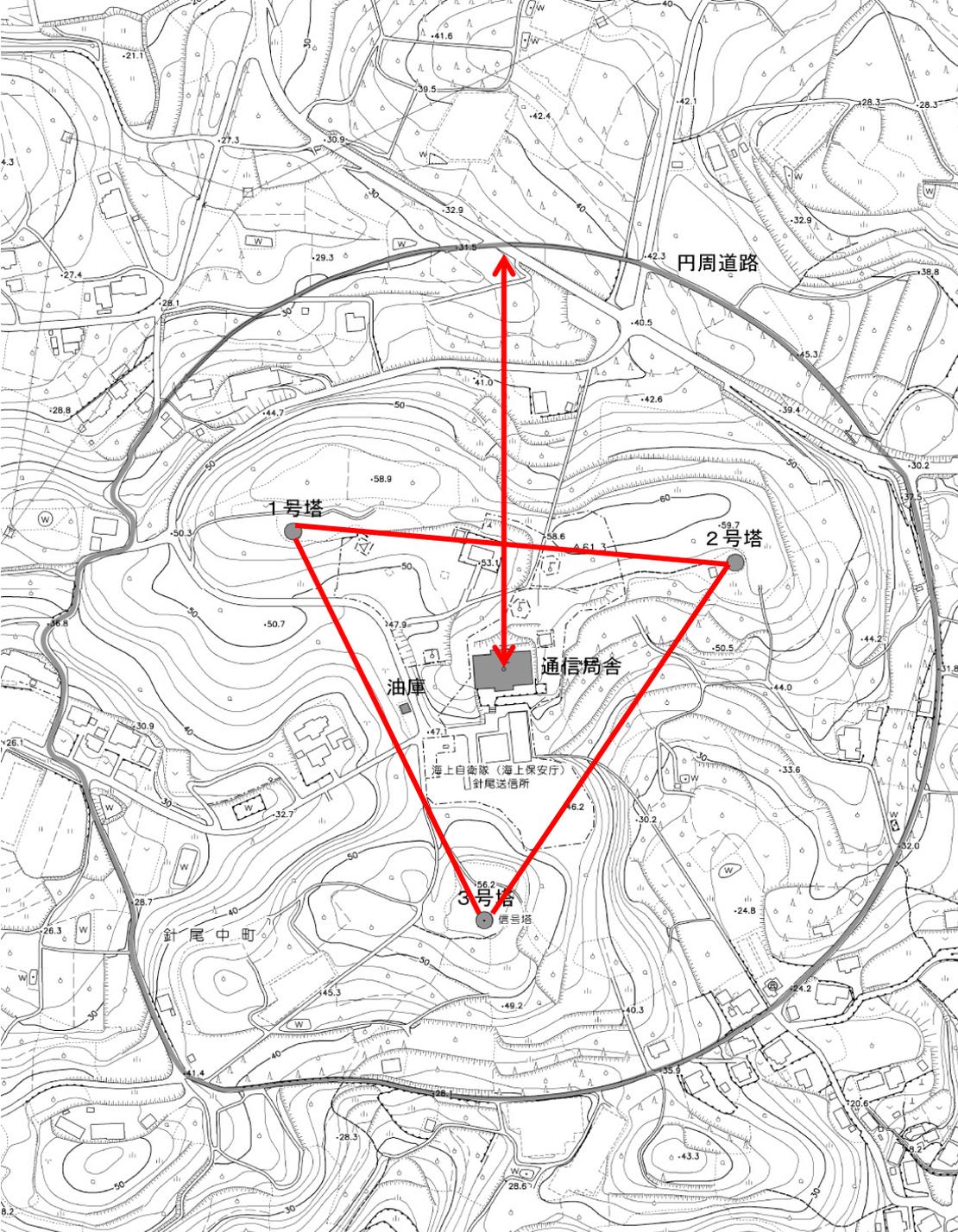
2号塔 5月21日 完成



3号塔 7月31日 完成

1922(大正11)年 針尾無線塔

主要遺構配置図



開局～太平洋戦争終戦まで

- 1923(大正12)年9月1日 関東大震災

東京無線電信所を中枢とした通信連絡を確保し、九州方面に対する無線局の中枢局として艦船及び陸上局との無線通信を行う



針尾送信所が非常時の通信連絡を統括管制し得たという多大な成果を発揮することとなり、存在価値を全国へ認識させる

2 送信所にある建造物

無線塔

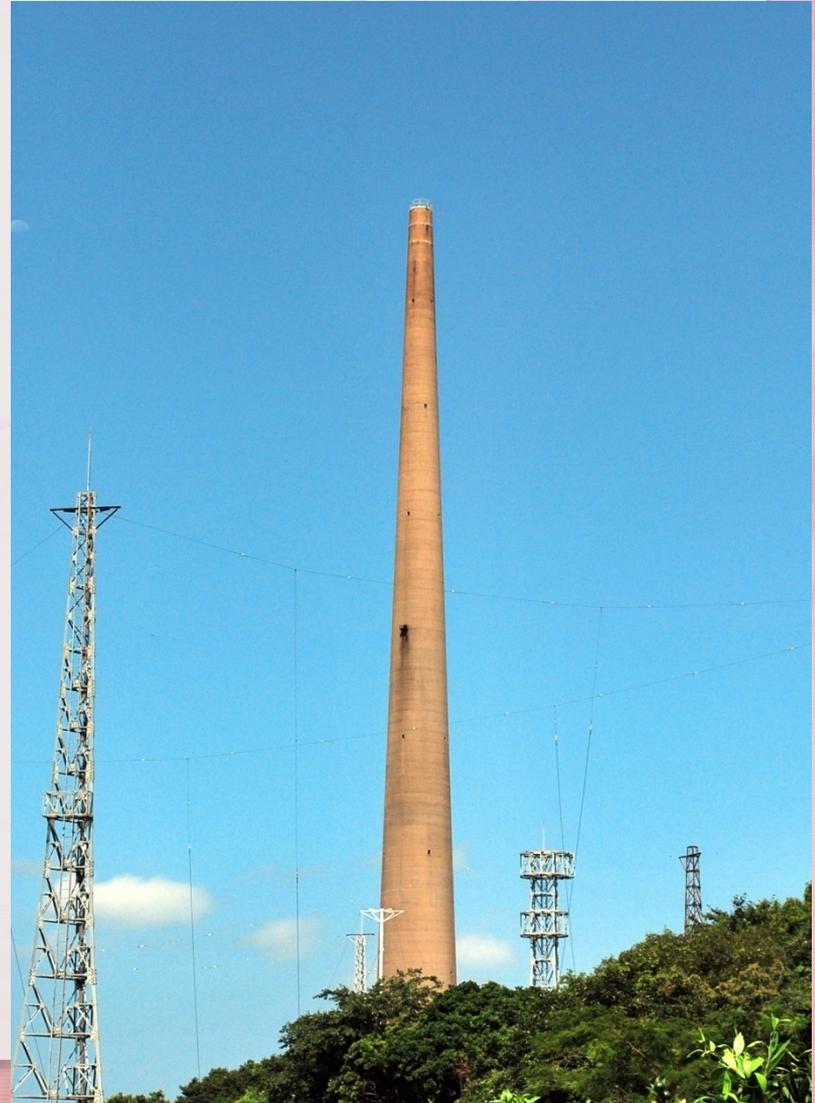
1922(大正11)年 4月・5月・7月に完成

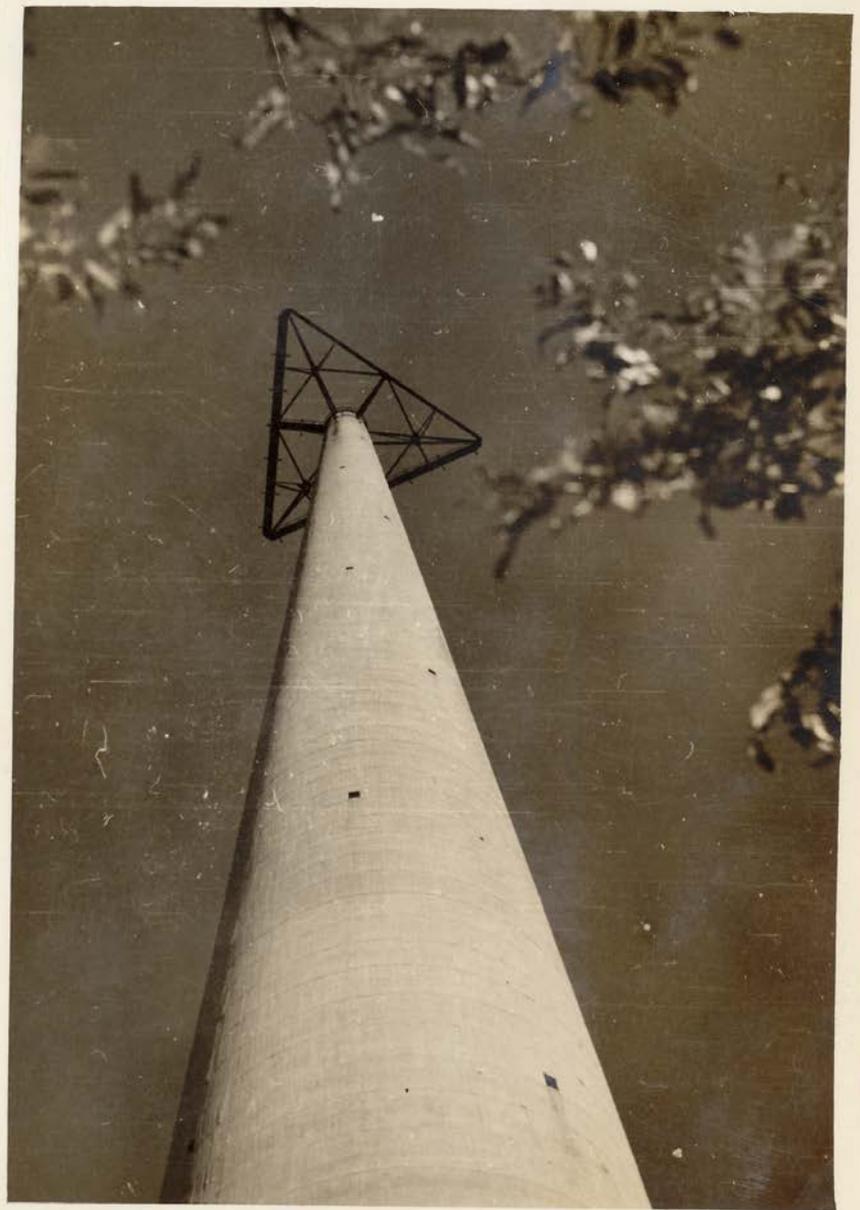
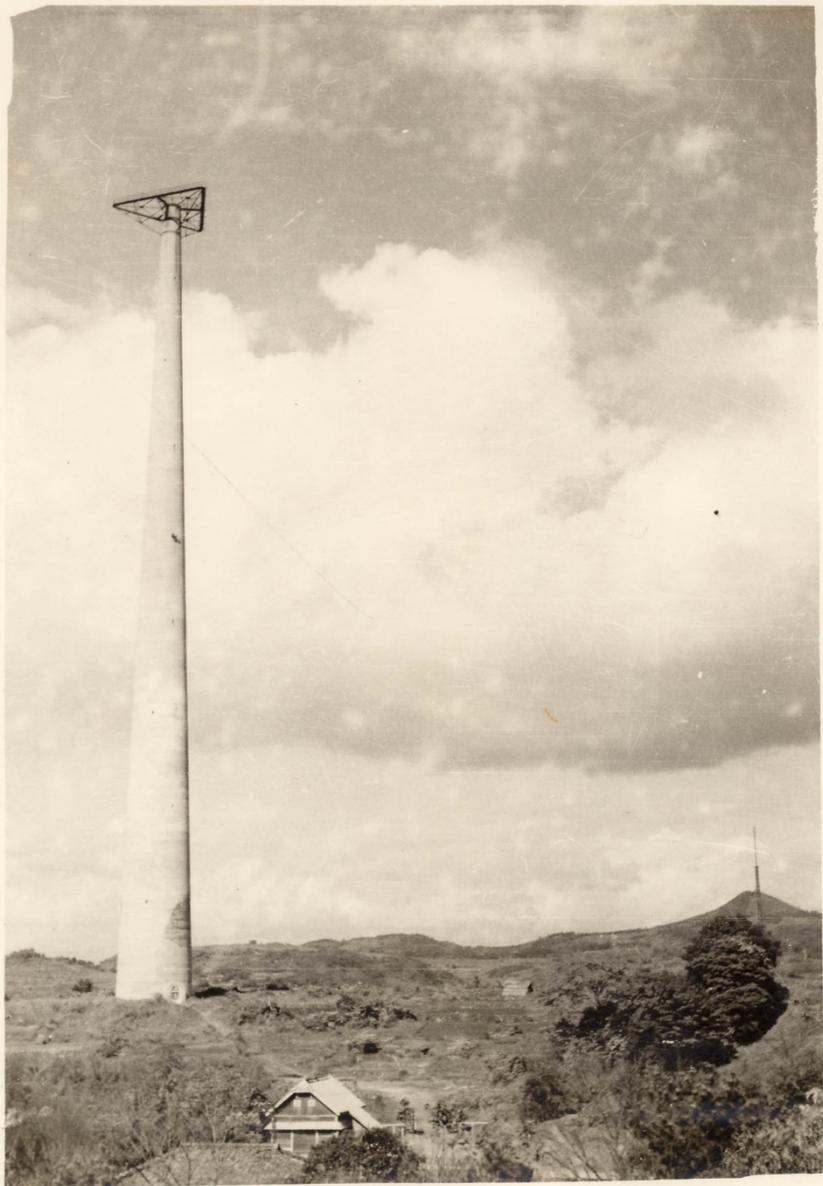
4年の歳月と30万円／1本
(現在の換算で約50億円)

通信局舎を中心に1辺300mの正三角
形に配置

開局当時は、頂部に簷と呼ばれる正三
角形の鋼材あり

↓
1980(昭和55)～1983(昭和58)年
撤去





簀(かんざし)・・・1辺約18mの正三角形 幅80cm 重さ約9ト

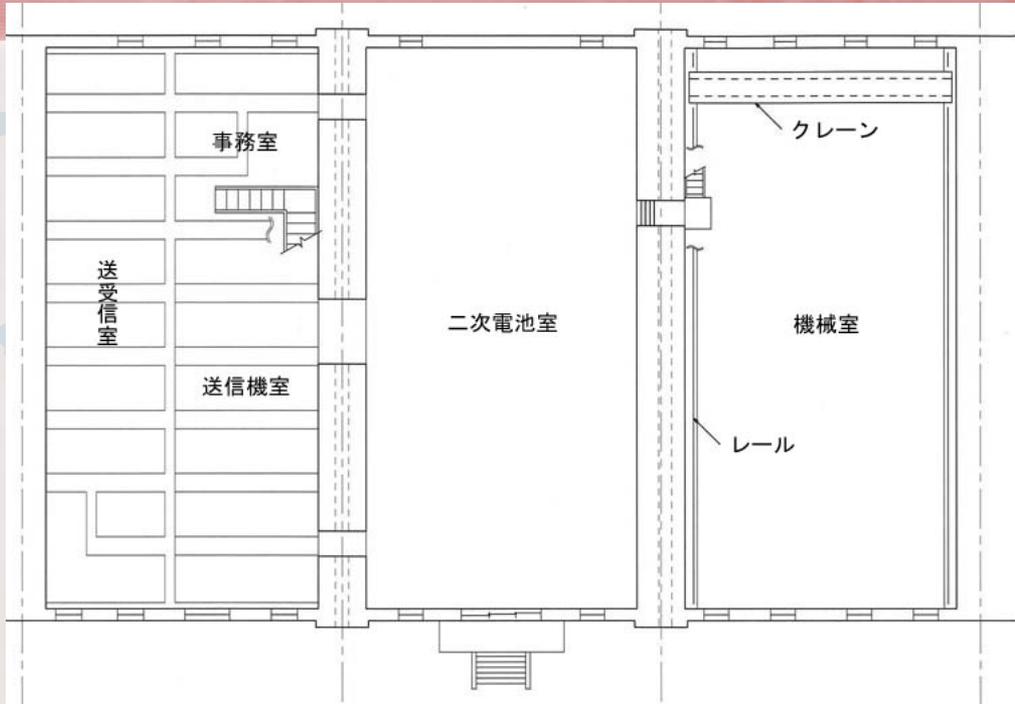
見張所



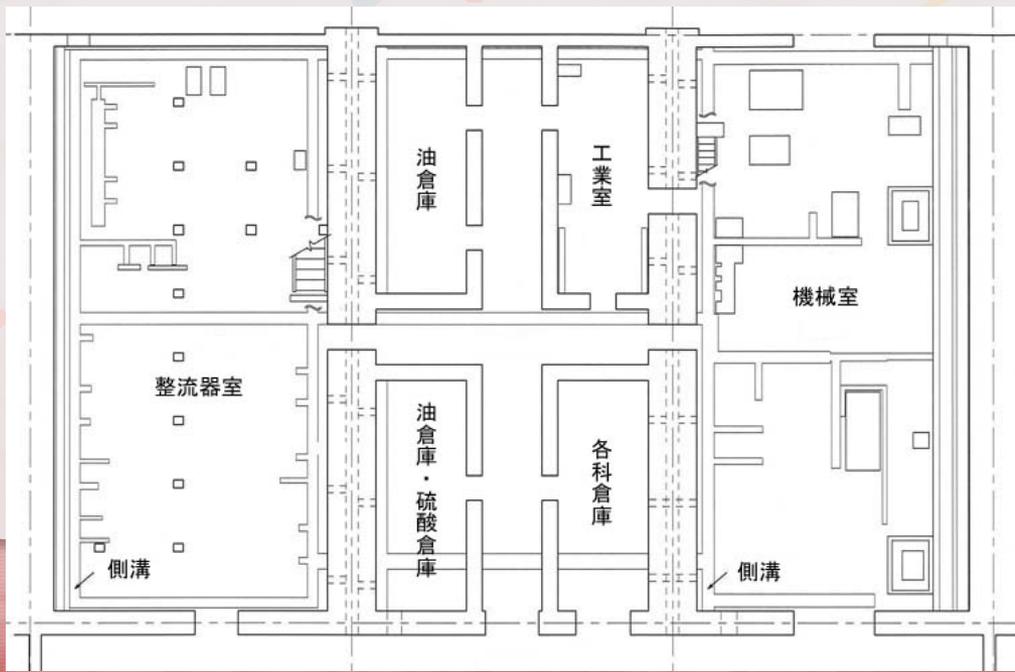
電信室(通信局舎)







2階部分



1階部分





油庫



電波通信史

1916(大正5)年 船橋無線電信局(鉄塔) 海軍省

1921(大正10)年 福島原町送信所(鉄筋コンクリート) 逓信省

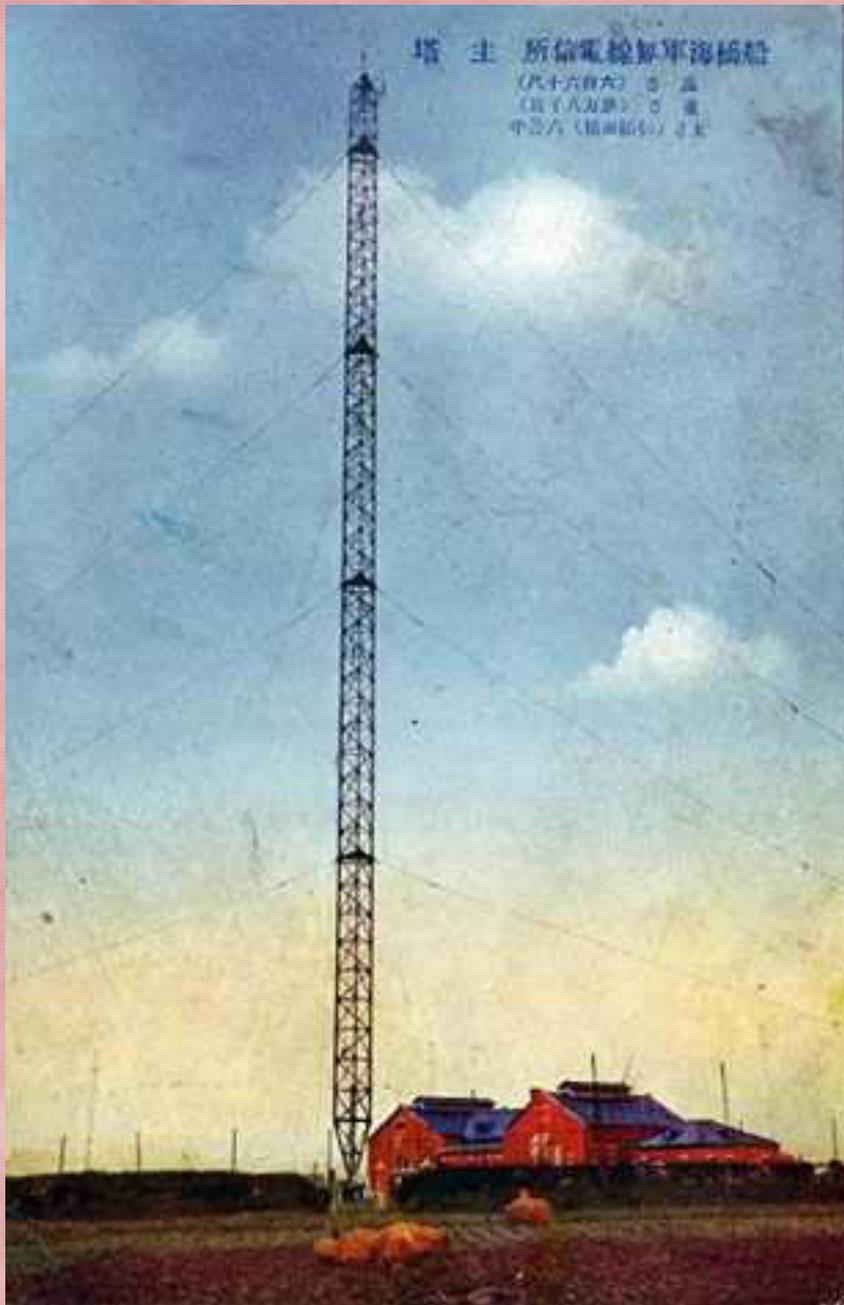
1929(昭和4)年 依佐見送信所(鉄塔) 日本無線(株)

※1923(大正12)年 ヴァールヴェリ無線局(鉄塔) 世界遺産

①長波送信施設は、電波通信史の中で記念碑的な建造物

②針尾送信所は、無線塔・通信局舎ともに現存する国内最後の施設

③マルコーニ(伊)が1895(明治28)年に開発した無線を、わずか27年後に近代通信施設で体现した



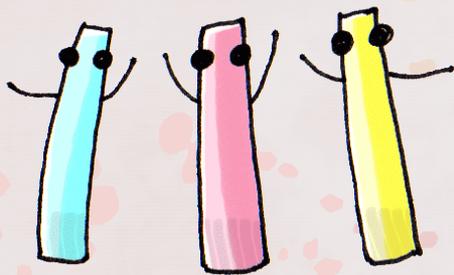
船橋送信所

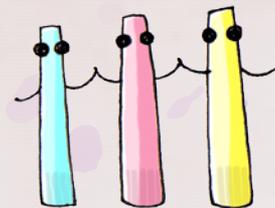


原町送信所

針尾送信所の未来・・・

～整備と活用～

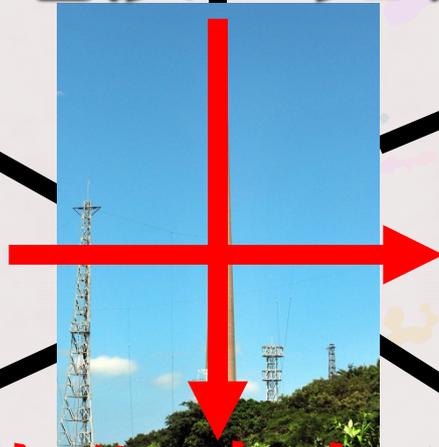




無線電波の発信地



電波



伝播

佐世保近代化遺産群の発信地



ご清聴ありがとうございました